

足立政男先生をお送りする言葉

経済学部長 小 牧 聖 徳

足立政男先生は昭和五十六年三月三十一日付をもって立命館大学を定年退職されることになりました。足立先生が本学部へ就任されて以来、早や三十二年が経過しましたが、その間に先生が経済学部に残された功績は多大なものがあります。

足立先生は徳島県のお生まれで、立命館大学文学部史学科を御卒業後、つづいて経済学部へ進まれ昭和二十四年に卒業されました。御卒業の以前から教職におられ教え且つ学ぶ豊かな体験をつまれた先生は、経済学部を卒業されると同時に本学部にて専任教員として就任され、それ以来、本学の教学にその生涯をささげて来られました。足立先生は本学部で日本経済史、一般教育の歴史を担当され、深い学識と豊富な教育経験、さらに先生の温厚なお人柄によって多くの学生の人望を集めて来られました。古い卒業生は今尚、忘れ難い恩師として敬愛の念を抱きつづけております。京都を愛し、学生をこよなく愛しておられる先生は、かつて新入生に与える言葉として「折角京都で勉強する機会に恵まれたのであるから、四年間に日本人の心のふるさとを知るため、計画的に東西南北と名所史跡を訪ね、教養を高めること」、「清新で民主的な学風をしっかり身につけ将来、社会に出て活躍する素地を四年間にしっかり身につけること」と書いておられますが、このお言葉の中に立命人としての先生の御

足立政男先生をお送りする言葉（小牧）

見識と学生に対する暖かい配慮をうかがうことができます。

足立先生はまた御専門の日本経済史の領域でも、着実に研究を積み重ねられ、昭和四十九年には「老舗の家訓と家業経営」の研究によって経済学博士の学位を受与され、その後も精力的に研究をつづけられ多くの業績をのこされました。先生の堅実な学風は多くの人々の尊敬措く能わざるところであります。

さらに先生は御就任以来、数多くの学内役職を快く引受けられ多大の貢献をされました。とりわけ学園紛争直後の本学初めての公選制度による学部長の重責を果され、その後も経済学部部長として学校行政の上でも多くの功績を残されたのであります。

御就任以来、本学部の充実、発展に大きく貢献して来られました今、定年とはいえ、先生を失うことは経済学部にとって大きな痛手であり、惜別の情、耐え難いものがあります。先生の数々の御功績に対し、立命館大学および経済学部は名誉教授の称号をおくり、先生の栄誉をたたえることと致しております。

足立先生、永い間、経済学部のために御尽力くださいましてありがとうございます。今後とも益々御健康で末永く楽しくお過ごし下さいませよう、経済学部関係者一同、心からお祈り申し上げます。そして今後とも経済学部の後輩に御指導賜りますようお願い申し上げます。先生をお送りする言葉を終ります。

一九八〇年十月